

第3回白馬村子ども・子育て会議 議事録

開催日時 平成27年2月19日 午後1時30分～午後2時50分

開催場所 白馬村保健福祉ふれあいセンター2階 学習室

出席委員

石田周治、岩井良三、太田昭子、太田喜三男、小山知代、武田弥生、田中あつみ、谷川真由美、
幅下守、山崎吉彦（代理：矢口高士）

欠席委員

池田俊治、田中彩子、松澤忠明、平山裕美、大野都

次第

1.開会

2.あいさつ

3.協議事項

（1）白馬村子ども・子育て支援事業計画（素案）について

（2）その他

4.その他

5.閉会

1. 開会

○山岸補佐 それでは定刻となりましたので、ただいまから第3回白馬村子ども・子育て会議を開催いたします。会議の開催にあたりまして、幅下会長より一言あいさつ申し上げます。

2. あいさつ

○幅下会長 皆様お忙しいところご出席ありがとうございます。今回で第3回を迎えることとなりました。来年度から始まる白馬村子ども子育て支援事業計画の審議をしていただいているところではありますが、さらに審議していただいて、パブリックコメント等を行う方向になろうかと思えます。本日はキャッチフレーズ等も決定していきますので、慎重審議していただいて、一定の方向が出ればと考えております。よろしくお願いいたします。

3. 協議事項

○幅下会長 (1)「白馬村子ども・子育て支援事業計画(素案)」について事務局より説明をお願いします。

○下川 まず、訂正があります。42・47ページの放課後児童クラブの記載において、学校休業日は8:30～18:00、土曜日は8:30～17:00に訂正をお願いします。

30ページのキャッチフレーズについて、前回会議の際に、より具体的なキャッチフレーズがいいのではないかという指摘があり、委員の皆様から事前に提出いただいた案を資料にまとめましたので、これを参考にキャッチフレーズの協議をお願いします。

○幅下会長 委員提出案が12、事務局案が4、参考案が1つあります。基本的には資料30ページの基本理念と施策にあるとおりに、子育てに係る子ども・家庭・地域への支援という、大きく3つの支援の視点があるかと思えます。

○谷川委員 9番か14番がいい、9番は“ぐんぐん伸びる”で子どものこと、“子どもと歩む”で家庭のこと、“白馬村”で地域という全て含まれる。14番はシンプルでよい。

○山崎委員代理 フレーズを合わせて、「未来・笑顔・生きがい 白馬の子育て」というのはどうでしょうか。

○小山委員 9番が全て含まれるし、白馬と入った方がどこのキャッチフレーズかすぐにわかるので、地域らしくていいと感じた。

○岩井副会長 5番・7番等色々合わせて「村ぐるみで輝く子どもの健やかな育ち、未来へ向けて」はどうでしょう。

○幅下会長 ではこの9番「ぐんぐん伸びる子どもと歩む白馬村」、14番「子どもたちの幸せ育てる白馬村」、「未来・笑顔・生きがい 白馬の子育て」、「村ぐるみで輝く子どもの健やかな育ち、未来へ向けて」の中から選ぶということではよろしいでしょうか。どれもいいキャッチフレーズなので、多数決で決まるのはいかがでしょうか、

○太田課長 人口減少している現状で、子どもは宝であり、白馬村に戻ってきてほしいという願いを込めたキャッチフレーズがいいと考えます。この4つの中でどれが選ばれてもキャッチフレーズとしては非常にいいものと考えます。

多数決結果

「ぐんぐん伸びる子どもと歩む白馬村」 : 4票

「子どもたちの幸せ育てる白馬村」 : 4票

「未来・笑顔・生きがい 白馬の子育て」 : 2票

「村ぐるみで輝く子どもの健やかな育ち、未来へ向けて」 : 2票

では、9番、14番が4票で、同数なので、決戦投票を行います。

多数決結果

「ぐんぐん伸びる子どもと歩む白馬村」 : 4票

「子どもたちの幸せ育てる白馬村」 : 8票

それではキャッチフレーズは14番の「子どもたちの幸せ育てる白馬村」に決定しました。

○下川 では30ページの「未来への光で村を輝かそう」が「子どもたちの幸せ育てる白馬村」に変わります。また、基本理念の本文から、[「白馬村次世代育成支援行動計画」の考え方を受け継ぎ、]という文言は削除いたします。

次に32ページ「教育・保育の量の見込み及び提供体制の確保内容・実施時期」の中の3号、3歳未満児（0歳と1・2歳）の確保方策について、今後5年間の受入数について協議をお願いします。平成27年度の入所申込み状況については、3歳未満児は41名の申請があり、うち2名は就労時間が短いとの理由で却下しています。月別では3月が一番多く、37名の申込となっています。

○幅下会長 前回会議において、見込みは50人ということで協議されたわけですが、今回はその具体的な受入れ人数の協議になります。現状で何人くらいなら受入れが可能なのでしょうか。

○太田課長 現段階でしろま保育園の施設での受入れ可能数は、3月議会に提出する定数改正で、今より4人増やして34人とする予定です。受入数の解消には施設の増設、3歳以上児の部分で白馬幼稚園と協力をするのか、新制度に基づく家庭的保育の事業を開始していただくかの3つが考えられます。34人の定数に加え緊急的な対応を考慮したプラスアルファである4人を加えた38人が現実的な数字です。当初目標の50人というのは厳しい。

○武田委員 現実的に厳しいのであれば38人で仕方ない。質問ですが、今回3歳未満児の入所申請にあたり、お断りした方はどのように判断したのか。

○下川 指数により判断しました。冬の期間のみ定員オーバーした部分で保留状態にしてあり、秋ごろに状況を踏まえて再度判断します。

○幅下会長 5年間を見通して数字を入れるということですが、現状では38人以上は難しいということで、増やす方向で考えていただければと思いますが、現実的に今回の申込が41人ということで50人はあるかどうかわかりませんが、現実的な数字を考えるのもいいのではないかと。

○武田委員 出生率もあるので、5年後を見据えてというのは難しい。

○谷川委員 資料の人口減少を考えると、出生率も減少する方向なのではないか。そういう状況であれば、施設増設ではなく新たな対応策を検討した方がいいのではないかと。

○小山委員 今まで未満児30人定員だったものが、施設の増設や受入れ人数の拡充の方向性を目標として示すことで、現実的に実感できるようになれば、お母さん方も子育てや就労に対する考えも変わるのではないかと。気持ちとしては50人で施設も増設してほしいが、現実的に可能かどうかは判断できないところだが、やっていただけるのであれば目標として示す意義はあるのではないかと。

○太田課長 村長も未満児待機児童の解消に対して意欲があるので、村としても何らかの施策を打ち出す必要はある。この現実的に50人というのが適当なのかは判断が難しい。家庭的保育事業や企業の託児所の活用も必要になってくるものと考えている。

○武田委員 村が子育てに対して施策を考えているということを知らない人が多いのではないかと。子育ての充実したところに転出する人もいる。もっと周知した方がいいのではないかと。現実的には難しいのかもしれないが、現実的な数字のみではなく、前向きな目標というものでもいいのではないかと。

○幅下会長 現実的な数字38人ないし目標としてプラスアルファで数名含めた数字で設定して、村の方針の周知を行いながら、今後希望者が増えればまた数字については協議するというのはどうでしょうか。

○武田委員 5年間で決めるものなのか。

○下川 今回は5年間で計画を作る。そのまま5年間続くわけではなく、途中で会議を行い、そこで人数の変更を行うことも可能である。

○幅下会長 では現実的な38人に設定して、今後修正していくということでもいいでしょうか。

○下川 内訳は0歳が4人で、1・2歳が34人ということでしょうか。

○太田委員 0歳と0歳児では違う、どちらか。

○下川 新制度では満年齢である。

○田中あつみ委員 生後10ヶ月からの保育なので、対象となるのは1ヶ月の期間なので、ほとんどいない。

○下川 規定で決まっていて、満3歳になった時点から2号認定になる。

○谷川委員 純粋に0・1・2歳で考えればいいってことですよね、0歳児はほとんどいないので、4人は多い。この数字にはこだわった方がいいのか。

○下川 運用の中では0歳児がいなければ、その分1・2歳児を多く受け入れるということも可能である。

○小山委員 4人というのは現状とかけ離れている気がする。

○田中あつみ委員 0歳を4人と設定をしたときは、そこまで考えていなかった部分がある。

○谷川委員 運用上のことと、制度上のことでとの兼ね合いが分からないので、事務局で決めた方もいいのではないかな。

○下川 基本的には0歳児が4人でいいかと思う。

○幅下会長 では0歳児4人、3歳未満児34人ということでもいいでしょうか。

○下川 35ページから、「次世代育成支援に関する施策」につきまして、今年度までの村の子育て支援は「白馬村次世代育成支援行動計画」に基づいて支援を行ってきたが、来年度からこの「子ども・子育て支援事業計画」に引き継ぐことになりました。この施策の内容について、また計画全体について修正等があれば協議をお願いします。

○幅下会長 事業の名前や具体的な内容について何かありますでしょうか。

○田中あつみ委員 38ページ「5歳児発達相談」について、“児”というのは外した方がいいのではないかな、そのほかにも同じような箇所があれば“児”は外した方がいい。

○山岸補佐 「白馬村次世代育支援行動計画」は当初平成17～21年度について第1期の前期ということで策定した。引き続き平成22～26年度まで制定し、今年で10年目になる。本来新しい策定の時期ではあるが子ども子育て支援事業計画に移行になる。今回、新たに次世代の中に組み込んで欲しいというのが1件あります。42ページ、放課後児童クラブと放課後子供教室の連携によって行う「放課後子ども総合プラン」を追加します。平成31年までに児童クラブ単位で設置するという国の指針である。学校・教育委員会とも連携していくもので、今後具体的に検討していくものです。

○山崎委員代理 学校の直接介入はない。学校施設の貸し出しは行うかもしれないが、公民館で行うことも可能な事業である。児童クラブは福祉の性格が強く、子供教室は体験の場の提供という教育の性格の強い事業である。

○谷川委員 児童の18歳までということで、就労支援、生活支援等の支援も必要ではないかな。相談支援センターの開設や放課後子ども総合プラン等様々な世代の支援が動き出しているので、相対的に子育てに関わる基軸になるものを作ってもらえれば非常にいい。特に義務教育終了後の支援等も必要と感じる。子どもに係る支援の充実した市町村というのは全国的に見ても人口の増加しているところが多いと思う。

○田中あつみ委員 同意見です。0歳から18歳まで一括してみていく場所が必要だと感じる。そういう機関が村にひとつあれば非常にいいと考える。

○幅下会長 福祉課だけでなく教育委員会も検討していかなければならないことかと思います。

(2) その他については特にありませんので、以上で協議内容は全て終了いたしました。

4. その他

○下川 パブリックコメントとして今日修正したものを村のホームページに2週間程度掲載し、意見等を集約して次回会議にて諮りたいと思います。次回会議の日程等につきましては後日連絡いたします。

5. 閉会

○山岸補佐 以上で第3回白馬村子ども子育て会議を終了いたします。

14:50 閉会